

事務事業名	農村集落竹林整備助成事業					☒ マニフェスト関連		☐ 全庁横断課題関連	
政策名	総合計画 03	働く人々が輝き続けるまちづくり				所属部	産業振興部	所属課	農政課
施策名	11	農業の振興				所属係	農業振興班	課長名	古閑 誠也
基本事業名	32	経営力の強化				担当者名	上山 直美	電話番号 (内線)	248-1111 1166
予算科目	会計 01	款 06	項 02	目 01	事業 86	法令根拠	合志市農村集落竹林整備事業補助金交付要綱		
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 (開始年度 8 年度 ~) (年度 ~ 年度)								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)			
(事業の内容) 農村集落竹林の保全、環境の保全のため、啓発を含め、間伐つ・及び全伐整備実施者に対し助成を行う。 ・間伐整備の場合.....10a当り 50,000円 ・全伐整備し市が認める樹木を植栽の場合.....10a当り 100,000円 (業務の内容) 市内山林の地権者からの竹林園地化に関する補助金の申請受理、審査、交付決定、支払い、竣工確認、交付確定事務 (予算の内訳) 負担金補助及び交付金						総投入量	事業費	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源	
							人件費	事業費計 (A)	0
								正規職員従事人数	
								延べ業務時間	
								人件費計 (B)	0
						トータルコスト(A)+(B)		0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

竹林の園地化

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

18年に同じ

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

市民(竹林の所有者)

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

台風等で荒れている竹林の間伐等整備をすることにより農村集落の景観が良くなり環境整備につながる。

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

安定した収入を確保ができる

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない

名称 単位
ア 申請件数 数

イ

ウ

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない



ア

イ

ウ

名称 単位
ア 申請した竹林所有者 人

ア

イ

ウ

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない
名称 単位
ア 整備ができた面積 m²

ア

イ

ウ

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない
名称 単位
ア 竹林整備ができていると感じる市民の割合 %

(2) 総事業費・指標等の推移

	単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	22年度 (最終目標)
投入量	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	632	512	772	800	800	800
	事業費計 (A)	千円	632	512	772	800	800	800
	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2
	延べ業務時間	時間	90	90	90	90	90	90
	人件費計 (B)	千円	225	225	357	357	357	357
	トータルコスト(A)+(B)	千円	857	737	1,129	1,157	1,157	1,157
活動指標	ア 数	11	3	10	10	10	10	10
対象指標	ア 人			10				
	イ							
成果指標	ア m ²	11,708.6	10,282.0	15,524.0	15,000.0	15,000.0	15,000.0	15,000.0
	イ							
上位成果指標	ア %							
	イ							

合志市

事務事業名	農村集落竹林整備助成事業	所属部	産業振興部	所属課	農政課
-------	--------------	-----	-------	-----	-----

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
集落周辺で荒れ果てた竹林が多く、景観が悪い。
平成8年、集落周辺の景観の醸成と、自然的地域特産物の生産拡大に繋げる。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？
竹林園地化の様態が見え、成果が上がっていると言える。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
事業を継続して欲しいと言う声がある。
申請件数が増えている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 農村の竹林の保全や景観保全対策は、新市建設計画や、市長マニフェストに対応している。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 事業費の一部の助成であり、放置すれば、集落周辺の山林の保全、景観の保全が図れず、防犯上の危険箇所も増える。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象者は、市内に竹林を所有する地権者で意図ともに妥当である
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 有るべき水準や、即効果の判断は市内の竹林面積が多く測れない。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 事業費の一部の助成であり、放置すれば、集落周辺の山林の保全、景観の保全が図れず、防犯上の危険箇所も増える。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ⇒【理由】(具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似する事業がない ☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 補助金額の減額 ※園地化の意欲、景観保全の後退が懸念
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 市補助金等交付の事務のため、職員により処理しなければならない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 竹林が整備されることにより、景観がよくなり、住環境も整い、市民に公平・校正である。

合志市

事務事業名	農村集落竹林整備助成事業	所属部	産業振興部	所属課	農政課
-------	--------------	-----	-------	-----	-----

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

有効性については、即効果の判断ができない

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

農村の竹林保全や景観保全対策は、新市建設計画や市長マニフェストの対応している。

(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		○	×
	低下		×	×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

竹林所有者が、目的に沿った意識向上を図る。

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

農村の竹林保全や景観保全対策は、新市建設計画や市長マニフェストの対応している。

(5) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項